

コンタクトレンズガイド



Red header bar

Blue horizontal bars

Red header bar

Blue horizontal bars

Illustration of a brochure titled "目の健康の大切なポイント" (Important points for eye health).

Four white boxes with orange question marks.



Green footer area with white boxes and arrows.





中学生・高校生のための コンタクトレンズ啓発資料

送料
無料

お申込書

下の太枠内にご記入のうえFAXでご送信ください(お申込受付期間:2020年7月31日まで)

申込日	年	月	日
希望部数	部		
学校名	中学校 高校 その他()		
送付先	住所 〒		
	電話番号	FAX	
	E-mail		

▶ **アンケート** (今後のコンタクトレンズ啓発活動の参考とさせていただきたく、お差し支えない範囲でお答えください)

お勤めの学校についてお伺いいたします。「回答選択肢」にしたがい、各質問ではまる番号または項目を○で囲んでください。

回答選択肢 : 1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない

1. 生徒の近視について

- 生徒の近視が増えていることに危機感を覚える。(1 2 3 4 5)
- 生徒が視力低下に対して、正しく視力を矯正できていない要因は?
(生徒が視力矯正の必要性を感じていない 保護者と検診結果が未共有 保護者の仕事の都合などで眼科受診の時間がない
生徒に、部活や習い事などで眼科受診の時間がない 経済的余裕がない その他く)
- “子どもの近視の進行を抑える対策のひとつとして、屋外である程度過ごしたり外で遊ぶことが効果的である”という研究報告が出ていることを知っている。(1 2 3 4 5)
- 生徒に対して、近視の進行を抑えるために、屋外活動や外遊びを推奨している。(推奨している 推奨していない)
- 屋外活動や外遊びをどのように推奨しているか。
(個別に生徒へ声掛け 校内にポスター設置 外遊び週間や委員会活動などを通じて
保健の授業などで啓発 保健だよりなど保護者へ向けた啓発 その他く)
- 近視が進行して強度近視になると、将来的に深刻な眼疾患や失明のリスクにつながる可能性があることを知っている。
(1 2 3 4 5)
- 生徒に対し、近視を放置し続けることによる将来のリスクについて伝える機会がある。
(ある ある程度ある ほとんどない まったくない)
- 生徒の近視を抑制または進行を予防するような指導教材が不足している。(1 2 3 4 5)

2. デジタル機器の使用環境について

- スマートフォン、タブレットPCなどデジタル機器に依存していると思われる生徒がいる。(1 2 3 4 5)
- スマートフォンやタブレットPCなどデジタル機器の普及は、生徒の目に悪影響を与えていると感じる。(1 2 3 4 5)
- 学校では、スマートフォンやタブレットPCなどデジタル機器の使用時間について指導している。(1 2 3 4 5)
- スマートフォン、タブレットPCなどデジタル機器の使用時間についてどのように指導しているか。
(個別に生徒へ声掛け 校内にポスター設置 委員会活動などを通じて実施 保健の授業などで啓発
保健だよりなど保護者へ向けた啓発 その他く)

3. コンタクトレンズの使用状況、目のケアについて

- コンタクトレンズの装着年齢が下がってきていると感じる。(1 2 3 4 5)
- コンタクトレンズの安全な装着に関する指導頻度の増加がこれまで以上に必要だ。(1 2 3 4 5)
- コンタクトレンズの安全な装着に関して、指導教材が不足している。(1 2 3 4 5)
- 花粉症による目の充血や痒みのためコンタクトレンズを装着できない、
または症状が出ているにもかかわらずコンタクトレンズを装着している生徒がいる。(1 2 3 4 5)
- 屋外活動時、まぶしさや逆光などによるけがの危険があると思う。(1 2 3 4 5)
- 屋外活動時に、生徒はまぶしさ対策(サングラスや帽子などの使用)を適切にできていると思う。(1 2 3 4 5)

4. その他「生徒のコンタクトレンズ使用に関して気になっていること」などがありましたらお書きください。

個人情報は記載しないようお願い致します。

お申し込みFAX番号

FAX: 03-6866-9939